

組織再編(平成15年)

■ 背景

- 改定愛知県第三次行革大綱に、「試験研究機関の活性化・合理化」が盛り込まれる。

■ 再編の内容

【平成14年】

- 管理、企画情報、普及指導、生物工学、経営環境、病虫害 = 6部
- 作物、園芸、花き、畜産、養鶏、山間農業 = 6研究所
- 弥富、安城、豊橋 = 3農業技術センター



再編

【平成15年】

- 管理、企画普及、環境基盤研究、作物研究、園芸研究、畜産研究 = 6部
- 東三河、山間 = 2農業研究所

平成15年～現在

■ 世の中の動き

- 平成16年 第3次オイルショック
- 平成17年 愛知万博
- 平成22年 猛暑により、コメの高温障害が多発
- 平成23年 東日本大震災
- 平成27年 TPP大筋合意



愛知万博

■ 農総試の動き

- 農水省等の競争的資金を積極的に獲得
- 燃油高騰対策の研究実施
- 外部評価を実施
- 名古屋大学、中部大学、名城大学並びに東海4県農業研究機関と研究連携協定を締結



燃油高騰対策試験



競争的資金による共同研究で開発した新品種



東海4県研究連携協定締結式

■ 主な研究成果

■ 迅速・簡易・精確！LAMP法で病害虫診断



- LAMP法を用い、農業分野では世界で初めて病害虫の遺伝子診断技術を確立
- LAMP法を用いて迅速・簡易・精確に病害虫を診断

■ 果実が大きくおいしいイチゴ品種「ゆめのか」の開発



■ 良質多収の小麦新品種「きぬあかり」の開発



■ 少ない投資で所得向上 —あいち型植物工場の開発—



- トマトでは、10a 当たり年間40 t の生産を実現する栽培システム

新たなステージへ

■ 世の中の動き

- 人口減少、少子・高齢化が加速
- 食の国内市場が縮小、海外からの農産物の輸入増加に伴う産地間競争の激化
- 女性の社会進出に伴う外食、中食の増加
- 法人経営が主体、定年帰農者が増加
- AI、ロボット、ドローン、ICT、IoT等の急速な発展、実用化



■ 農総試の動き

- 「試験研究基本計画2020」の目標達成に向けた試験研究を推進
- モノづくり県の強みを活かし、AI、ロボット、ドローン、ICT、IoT等を活用した技術を積極的に導入した研究を加速
- 農総試の強み(現場解決型研究の追求、農畜産物の生理生態データの蓄積等)を磨き、民間企業等との共同研究をさらに推進

